

平成30年度 宮崎県立農業大学校 学校経営方針及び目標設定

| 教育目標 | 目指す人材像 | 平成30年度 重点取組 |
|---|--|--|
| (1)農場での実践学習により、確かな生産技術と柔軟な経営スキルを備えた人材を育成する。 (2)地域社会や地域農業の課題解決に主体的に取り組みながら、専門性を高めていく人材を育成する。 (3)地域社会における実践学習により、組織の中で自分を活かし、社会で活躍できる人材を育成する。 | (1)時代の流れを的確に捉え、持続可能な経営と新たな農業に意欲的にチャレンジする農業経営者 (2)グローバルな視点を持って未来を切り拓くとともに、郷土愛を持って地域の創生・発展をけん引するリーダー | (1)入学定員(65名)の確保 (2)儲かる農業を実現する確かな生産技術や経営能力を備えた実践力のある農業経営者の育成 (3)きめ細かな進路指導による学生の100%進路実現 |
| | 本校で育む5つの力 | |
| | ①生産する力 ②経営する力 ③課題を解決する力 ④社会で活躍する力 ⑤自分を活かす力 | |

設置根拠 農業改良助長法第7条5項の規定に基づく「農業者研修教育施設」
 学校教育法第124条の規定に基づく「専修学校」

| | 評価項目 | 平成30年度目標 | 目標達成のための方策 | 昨年度の主な実績・成果と課題 | |
|-------------|-------------|--------------------|---|---|---|
| 学校全体 | 学生募集 | 入学者の確保 | ○65名定員の確保 ○就農に意欲のある入学者の確保 | ○学校説明会・ガイダンスへの積極的な参加 ○高校訪問、オープンキャンパスの工夫 【実績・成果】 ○高校訪問、学校説明会、ガイダンスにおける学生募集 ○定員65名に対し、68名の入学(71名合格) | |
| | | 学校PR | ○教育内容PR ○積極的な情報の発信 | ○学校HPやSNSを活用した情報の発信 ○マスコミ(新聞・TV等)の積極的な活用 ○HP、パンフ、リーフの更新 【成果】 ○Facebook、SNSを活用した情報発信が好評 | |
| | 学校教育 | 教育課程 (講義・実習・研修) | ○新教育計画に基づく学習の実施と指導体制の強化 ○経営を重視した指導体制及び施設の整備 ◎規則の見直し及び改定 | ○カリキュラムに対応した学習環境の充実 ○授業評価による指導力向上と授業改善 ○企業、大学、法人、自治体と連携した教育の実施 ○施設設備の整備計画を策定 ○新教育計画の運用管理 ○2ヶ年間の教育目標及び教育内容や体制の確認・整備 ○農大管理運営規則の見直し、改定 ○学生便覧の作成 | 【実績・成果／課題】 ○旧体制の整理と新体制への完全移行(新教育計画、H30年度カリキュラムを編成) ○学科改編により新たな学習内容を展開 ●農大の在り方検討委員会の設置遅れ ●人的配置や施設設備等の教育環境の整備が急務 ●全科目による授業評価を徹底できず |
| | | 担い手育成事業 (高大連携) | ○高大連携の充実 | ○高校訪問による授業参観及び意見交換会の実施 ○今までの高大連携事業を照査し、県内農業高校との連携を拡大 ○地域連携型コンソーシアム方式によるプロジェクト学習の実施 ○宮崎大学や南九州大学と連携し、専門性の高い授業や連携プロジェクトの実施 | 【実績・成果／課題】 ○国庫事業を活用した高大連携による先進地視察研修の実施 ○4年制大学との連携により、専門学習をさらに深化することができ、授業や実習も受講 ●高大連携が5年を経過し、内容の精査が必要 |
| | | 自治活動 | ○学生自治組織の活性化 ○自治会役員のリダーシップ養成 | ○役員の意識や資質の向上を目指し、研究会や定期的な役員会を実施 ○活動目標や年間目標を定め、各部会毎の積極的な活動を実施 ○自主的な地域貢献を推進 ○自治会規則の見直し改定 | 【実績・成果／課題】 ○自治会の定例会を実施 ○学生主体の学校・寮・農場運営を実施 ○地域の協力を得て農大祭を開催 ○自治活動により、企画力、実践力、リーダー育成に繋がった ●役員以外の学生との意欲・意識のズレが大きい |
| | 進路実現 | 進路実現 | ○進路指導体制の確立 ○年内100%進路実現 ○進路実現に向けた新たな事業展開 | ○進路指導計画に基づいた早期の取組と学生への意識付け ○ハローワークとの連携による個別指導の徹底 ○進路指導委員会の定期的な開催 ○3校企画会議の具現化 ○進路開拓 | 【実績】 ○進路決定100% 《就農35名 就職20名 進学2名》 ○ハローワークによる面談を実施し、進路実現をサポート |
| | | 担い手の確保 | ○就農支援体制の確立 ○就農率6割以上を確保 | ○法人との就職相談会や職場体験の実施 ○次世代人材投資資金の有効活用 ○就農コーディネータ、普及センター、自治体との連携による就農支援 | 【実績】 ○就農率(61%) (即就農7名、法人就農27名、研修1名) |

| | 評価項目 | | 平成30年度目標 | 目標達成のための方策 | 昨年度の主な実績・成果と課題 |
|-------------|---------------------------|---|--|---|--|
| 各 学 科 | (農学科・畜産学科共通) フードビジネス専攻 | 学科目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○県内の農畜産業を支え、フードビジネスに対応できる柔軟な発想力とスキルの習得 ○宮崎県の農業及びフードビジネス産業等を支える人材の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ○関連企業や専門機関と連携した実践的カリキュラムの実施 ○フードビジネス関連団体や企業と連携した講義や研修の実施 ○フードビジネス関連産業への進路開拓 ※法人マッチング会(7月)への参画事業所開拓(県食品産業協議会) ○インターンシップや校外学習の実施 ○鍋合戦等、地域イベントへの積極的な参画 | <p>【取組/成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高鍋商工会議所や食品関連産業と連携した「会社経営演習」「商品開発と流通販売」「6次産業化」等の新科目の展開 ○進路選択を視野に入れた農業法人・食品関連産業への視察や実習の実施 ○フードビジネス関連団体や企業による講義や研修により、マーケットインの知識や技術習得 |
| | | 農業教育 (講義・実習) (プロジェクト学習) (校外学習・研修) etc | <ul style="list-style-type: none"> ○食品加工や新商品開発から流通・販売までのフードビジネスに関する総合的知識・技術の習得 ○地域課題を踏まえたプロジェクト活動の実践 | <ul style="list-style-type: none"> ○食品の機能性など食品に関する知識の習得をめざし南九州大学と連携した講義の実施 ○官能評価など最新設備を備えた食品開発センターにおける実習 ○一般社団法人みやPECと連携した講義実習 ※新商品の開発(トップパテシエによる県産果実を利用した菓子製造技術の向上) ○地域内企業と連携したコラボ商品開発 ○模擬会社の運営を通じた直売所における販売促進の実施や会社経営学習の実施 | <p>【取組/成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○南九州大学と連携協定を締結し、大学で「食品の機能性」「食品基礎実験」を実施 ○1年生69名による模擬会社「アグリカレッジひなた」を設立 ○グループインタビューの実践により消費者のニーズにマッチした新商品の開発(のうだいほろり) ○農業法人や食関連企業における校外研修の実施 ○鍋合戦や食の大運動会等地域イベントへの参画 ○4年制大学での講義や模擬会社設立など新教育計画により学生の学習意欲が向上した。 <p>【課題】</p> <p>模擬会社の設立はメディア等で紹介され、学生の意欲が高まっているため、実践活動が必要</p> |
| | | キャリア教育 (進路実現) (資格取得) etc | <ul style="list-style-type: none"> ○6次産業化や食関連産業への進路を見据えた資格取得の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○フードビジネス関連の資格に関する情報収集 ○各種資格取得に向けて授業や時間外ゼミの実施 | <p>【実績・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○フードビジネス関連の進路を見据えた推奨資格の設定 ○資格取得に向けて授業や時間外ゼミの実施 ○フード関連の資格取得状況は、 <ul style="list-style-type: none"> ①初級食品表示診断士3名 ②食品安全検定8名 ③フードアナリスト4級16名(フード専攻以外2名) ④食品衛生責任者18名(フード専攻以外4名) ⑤POP広告クリエイター検定は30年度に受験 |

| 評価項目 | | 平成30年度目標 | 目標達成のための方策 | 昨年度の主な実績・成果と課題 | |
|-------------|-------------|---|--|--|---|
| 各 学 科 | 農 学 科 | 学科目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○実践学習による生産技術と経営スキルの修得 ○農業に夢を持って意欲的に取り組む人材の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ○地域の教育力を積極的に取り入れた実践的なカリキュラムを実施 ○就農希望者に対する農業改良普及センターや自治体、就農コーディネータと連携した就職支援 | <p>【実績・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講義-演習-実習と、即戦力が可能な知識と技術の確実な修得を目指した学習を実施 ○地域イベントを通じた流通・販売実践学習を実施 ○農業法人、関連産業と連携し、研修を実施 ○コーチング演習により、生産技術や農場管理方法が伝承され、人材育成の基礎となる教育環境が整備 |
| | | 農業教育 (講義・実習) (プロジェクト学習) (校外学習・研修) etc | <ul style="list-style-type: none"> ○本県主要作物の生産技術の習得と実践 ○地域課題を踏まえたプロジェクト活動の実践 ○農業法人や篤農家での研修の実施 ○農産物や加工品の販売スキルの修得 | <ul style="list-style-type: none"> ○生産農場の自主的な運営強化による生産品目の生産量拡大 ○高鍋農業高校と連携した地域連携型プロジェクト学習の実施 ○ICTシステムを導入したスマート農業の実践 ○進路実現に繋がるインターンシップや校外学習の実施 ○地域イベントへの積極的な参加による、実践的な販売実習の実施 | <p>【実績・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年次に複数品目を幅広く学習できるよう環境づくり(総合実習)を実施 ○各専攻農場において、主要品目の栽培に取り組み、基礎的な栽培技術を習得 ○学生組織による農場管理を通じた管理作業、収穫、販売等、自主的管理を実施 ○教えながら学ぶコーチング演習を通じて学習効果が向上 ○高大連携による視察研修や校外学習を通じた地域課題の設定 ○農業法人や篤農家研修を通じた技術や経営スキル習得 ○対面販売や直売所での販売による販売スキルの習得 |
| | | キャリア教育 (進路実現) (資格取得) etc | <ul style="list-style-type: none"> ○学生個人個人の進路設計のサポート ○自主的な進路情報収集能力の育成と自立支援 ○資格取得の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ○入学直後から進路指導計画に基づく進路指導を実施 ○日頃の教育活動を通じた自立支援 ○各種資格の情報提供及び取得の推進 | <p>【実績・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業生27名中、即就農3名、法人就農12名 ○日本農業技術検定2級2名合格 ○危険物取扱責任者(乙種第4類)3名合格 ○フラワー装飾2級4名合格 |

| | 評価項目 | | 平成30年度目標 | 目標達成のための方策 | 昨年度の主な実績・成果と課題 |
|-------------|------|---|---|---|--|
| 各 学 科 | 畜産学科 | 学科目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○即戦力として地域の畜産業を担う人材の育成 ○全員の進路目標の実現 | <ul style="list-style-type: none"> ○早期に進路を定め、進路先に応じた対策を実施 ○就農希望者に対する農業改良普及センターや自治体と連携した就職支援 ○畜産法人、畜産関連企業、畜産団体等と連携した研修や校外学習の実施 | 【実績・成果】 <ul style="list-style-type: none"> ○全員の進路実現し、就農率78%の担い手を確保・育成 即就農3名、法人就農11名、農業団体2名、畜産関連会社1名、進学1名 |
| | | 農業教育 (講義・実習) (プロジェクト学習) (校外学習・研修) etc | <ul style="list-style-type: none"> ○本県畜産に関する生産技術と経営スキルの習得 ○地域連携型プロジェクト学習や共同研究による効果的な学習体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ○学科職員による実践的な講義・実習の実施、および宮崎大学・県関係・畜産関係団体の外部講師による専門的講義の実施 ○高鍋農業高校との高大連携事業による高校から継続した教育の実施 ○宮崎大学との連携協定締結による共同研究等の推進 ○地元企業と連携し、農大産の牛肉や牛乳及び乳製品の販売促進 | 【実績・成果】 <ul style="list-style-type: none"> ○高鍋農業高校や地元企業(香川ランチ)と連携・共同プロジェクトに取り組み、地域農業の課題解決学習を実施 ○「機能性を高めた牛肉づくりへの挑戦」というプロジェクト課題が、九州大会で最優秀賞、全国大会で特別賞を受賞 |
| | | キャリア教育 (進路実現) (資格取得) etc | <ul style="list-style-type: none"> ○畜産経営および就職に必要な資格取得の推進 ○国際基準の品質管理体制の習得 | <ul style="list-style-type: none"> ○JGAP畜産の取得に向けた取り組みの推進 ○基本的な衛生・防疫知識の習得と日々の衛生・防疫作業の励行 ○各種資格の情報提供及び取得の推進 | 【実績・成果】 <ul style="list-style-type: none"> ○資格取得:家畜人工授精師24名(予定)、家畜体内受精卵移植師9名、牛2級削蹄師18名、家畜商5名他 ○4年連続で、「良質乳生産牧場」の認定 ○ヤンマー学生懸賞論文・作文で、2年連続銅賞(3席)を受賞 |